

会誌によせて

長野県数学会会長（岡谷南高等学校長）西牧 守

平成21年度の長野県数学会の諸事業が滞りなく実施できましたことは、事務局、幹事などの先生方のご尽力によるものであり、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

ここで、本年度の長野県数学会の主な事業を、改めて順を追って振り返ってみたいと思います。

・高校大学数学教育研究会

7月4日(土)、松本県ヶ丘高校を会場に開催。当日は、信州大学、諏訪東京理科大学の先生をお招きして、信州大学理学部・医学部・工学部・繊維学部及び諏訪東京理科大学の入試問題について解説をしていただきました。また、財団法人「数学オリンピック財団」事務局次長の浅井康明先生には、「数学オリンピックと高校数学」という演題でご講演をいただきました。

・夏期研修会

8月7日(金)、長野県総合教育センターを会場に開催。当日は、横田一郎信州大学名誉教授並びに横田ゼミの皆さんにより、それぞれ「群と対称性」「オイラー角とその拡張、そして横田ゼミ(歴史編)」「変換群と軌道分解」「例外型単純 Lie 群をめぐって～白馬から横田ゼミに、そして博士号へ～」という題で講義をしていただきました。

・総会、研究大会

10月30日(金)、31日(土)の両日、臼田高校、佐久市コスモホールを会場に開催。研究協議では、「学力の実態・教材研究」と「授業の工夫」の2分科会にわかれて研究発表が行われました。講演会では、灘中学・高等学校教諭の幸田芳則先生から「中高一貫校における数学教育～伸びる生徒を伸ばす数学教育法～」という演題でご講演をいただきました。

この3事業につきまして、参加人数は必ずしも多くはなかったものの、中身の濃い、充実した研究会ではなかったかと思っています。これも、担

当幹事の松本県ヶ丘高校宮下敏明先生、岩村田高校浅野誠司先生、臼田高校寺本篤史先生をはじめとする先生方のおかげであり、そのご労苦に感謝申し上げたいと思います。

また、県外での大会の発表に関わっては、8月開催の全国算数・数学教育研究(京都)大会では、上田千曲高校の横澤克彦先生にこれまで続けられ深められてきた個人研究の成果をご発表いただき、また、11月開催の関東都県算数・数学教育研究千葉大会では、長野南高校の宮下正志先生と高遠高校の牛山敏章先生に、それぞれの支会での研究の成果をご発表いただきました。発表に関わってのお取り組み、本当にありがとうございました。

ところで、昨年3月には高等学校の新学習指導要領が告示されましたが、今回の改訂に伴う教育内容に関する主な改善事項の中に、言語活動の充実とともに理数教育の充実ということが謳われ、世界的な競争の激化の中で理数教育の質・量両面での充実の必要性や、そのために必要な時間数を確保すること、並びに国際的な通用性、内容の系統性、小中高校での円滑な接続を踏まえた指導内容の充実を図ることなどが指摘されました。また、本年度行われた全国学力・学習状況調査の結果から、本県児童・生徒の算数・数学の課題が明らかになり、それを受けて指導改善の方向も「算数的活動・数学的活動を通して根拠を明らかにして筋道立てて考えたり、言葉や数、式、図、表、グラフなどを適切に用いて問題を解決したりする学習過程を工夫する。」とはっきりと示されました。今後は、それらを踏まえつつ、県数の様々な活動の場等を利用しながら、会員相互にお互いの実践に学びあい、研修、研究を深めることができればと考えております。

最後に、会員の皆様のご健勝と今後の益々のご活躍、それから長野県数学会の一層のご発展を祈念申し上げて、はなはだ簡単ですがご挨拶といたします。